【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年8月14日(2014.8.14)

【公表番号】特表2012-500787(P2012-500787A)
【公表日】平成24年1月12日(2012.1.12)
【年通号数】公開・登録公報2012-002
【出願番号】特願2011-523452(P2011-523452)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　47/20　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/06　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/22　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/14　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/24　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/16　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/44　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　47/20
Ａ６１Ｋ　 9/06
Ａ６１Ｋ　47/22
Ａ６１Ｋ　47/14
Ａ６１Ｋ　47/24
Ａ６１Ｋ　47/16
Ａ６１Ｋ　47/44

【誤訳訂正書】
【提出日】平成26年6月19日(2014.6.19)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ｉ）脂質マトリックスと、
ｉｉ）少なくとも１つのチオール化抗酸化物質と、
ｉｉｉ）任意で少なくとも１つの生理活性物質と、
ｉｖ）任意で少なくとも１つのキレート剤とを含み、
前記脂質マトリックスは、
ａ）少なくとも１つのジアシルグリセロール及び／またはトコフェロールと、
ｂ）少なくとも１つのリン脂質と、
ｃ）少なくとも１つの含酸素有機溶媒と、
ｄ）任意で少なくとも１つのフラグメンテーション剤とを含み、
　前記フラグメンテーション剤が、高分子剤、ポリオール界面活性剤、アニオン性界面活性剤またはカチオン性界面活性剤であり、
　成分ａとｂとの重量比（ａ：ｂ）は、８５：１５～３０：７０である製剤。
【請求項２】
　前記脂質マトリックスは、少なくとも１つの非ラメラ相の形態であるか、または水性流体にさらされると少なくとも１つの非ラメラ相を生成する、請求項１に記載の製剤。
【請求項３】

前記チオール化抗酸化物質は、チオール化糖、チオール化アミノ酸、チオール化アミノエステル、またはチオール化ポリオールである、請求項１から２のいずれかに記載の製剤。
【請求項４】
前記チオール化抗酸化物質は、モノチオグリセロール、システイン、及びＮ－アセチルシステインから選択される、請求項３に記載の製剤。
【請求項５】
前記生理活性物質が存在し、前記生理活性物質は酸化分解し易い物質である、請求項１から４のいずれかに記載の製剤。
【請求項６】
前記生理活性物質は、少なくとも１つの活性医薬成分である、請求項１から５のいずれかに記載の製剤。
【請求項７】
キレート剤をさらに含む、請求項１から６のいずれかに記載の製剤。
【請求項８】
脂溶性酸をさらに含む、請求項１から７のいずれかに記載の製剤。
【請求項９】
脂質マトリックスと、少なくとも１つの生理活性物質とを含む製剤における酸化分解を低減する方法であって、前記方法は少なくとも１つのチオール化抗酸化物質と任意で少なくとも１つのキレート剤を添加することを含み、
前記脂質マトリックスは、
ａ）少なくとも１つのジアシルグリセロール及び／またはトコフェロールと、
ｂ）少なくとも１つのリン脂質と、
ｃ）少なくとも１つの含酸素有機溶媒と、
ｄ）任意で少なくとも１つのフラグメンテーション剤とを含み、
前記フラグメンテーション剤が、高分子剤、ポリオール界面活性剤、アニオン性界面活性剤またはカチオン性界面活性剤であり、
成分ａとｂとの重量比（ａ：ｂ）は、８５：１５～３０：７０である方法。
【請求項１０】
脂質マトリックスと、少なくとも１つの生理活性物質とを含む製剤における酸化分解の低減へのチオール化抗酸化物質の使用であって、
前記脂質マトリックスは、
ａ）少なくとも１つのジアシルグリセロール及び／またはトコフェロールと、
ｂ）少なくとも１つのリン脂質と、
ｃ）少なくとも１つの含酸素有機溶媒と、
ｄ）任意で少なくとも１つのフラグメンテーション剤とを含み、
前記フラグメンテーション剤が、高分子剤、ポリオール界面活性剤、アニオン性界面活性剤またはカチオン性界面活性剤であり、
成分ａとｂとの重量比（ａ：ｂ）は、８５：１５～３０：７０である使用。
【請求項１１】
前記チオール化抗酸化物質を、キレート剤と組み合わせて用いる、請求項１０に記載の使用。
【請求項１２】
前記チオール化抗酸化物質を、少なくとも１つの脂溶性酸と組み合わせて用いる、請求項１０または１１に記載の使用。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【００６０】

１）高分子剤：ポロキサマー（好ましくは、プルロニック（登録商標）Ｆ１２７、プルロニック（登録商標）Ｆ６８、プルロニック（登録商標）Ｆ１０８、プルロニック（登録商標）Ｌ４４）、２－メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリンｎ－ブチルメタクリレートブロック共重合体（ＮＯＦ社製ＰＵＲＥＢＲＩＧＨＴ　ＭＢ－３７－５０Ｔ及びＰＵＲＥＢＲＩＧＨＴ　ＭＢ－３７－１００Ｔ等）、ＰＥＧ化されたソルビタン脂肪酸エステル（ポリソルベート、特にポリソルベート８０）、ＰＥＧ化された界面活性剤（例えば、ＢＡＳＦ社製ソルトールＨＳ１５）、ＰＥＧ化されたヒマシ油誘導体（例えば、クレモフォールＥＬ、クレモフォールＲＨ４０）、ＰＥＧ化された脂肪酸（例えば、ＰＥＧオレイン酸エステル）、ＰＥＧ化されたリン脂質（ＤＯＰＥ－ＰＥＧ（２０００）、ＤＯＰＥ－ＰＥＧ（５０００）、及びＤＳＰＥ－ＰＥＧ（５０００）を含む）、ポリグリセリン（ＰＧ）－リン脂質（例えば、ＮＯＦ社製ＳＵＮＢＲＩＧＨＴ　ＤＳＰＥ－ＰＧ８Ｇ等のＤＳＰＥ－ＰＧ、ＤＯＰＥ－ＰＧ等）、ＰＥＧ化されたオリゴアルキルソルビトール（ＰＥＧ－６０ソルビトールテトラオレイン酸エステル、例えば、ニッコー化学研究所製ＧＯ－４６０Ｖ）、ＰＥＧ化されたグリセリル脂肪酸エステル（例えば、ニッコー化学研究所製ＴＭＧＯ－１５）、ｄ－アルファトコフェロールポリエチレングリコール１０００コハク酸エステル（ビタミンＥ　ＴＰＧＳ（イーストマン））等のＰＥＧ化されたトコフェロール、及び、ＰＥＧ化されたアルキルエステル；

２）ポリオール界面活性剤：糖由来アルキルエステル（スクロースラウリン酸エステルやスクロースオレイン酸エステル等）、糖由来アルキルエーテル（例えば、オクチルグルコシド）；

３）タンパク質：カゼイン、カゼイン酸ナトリウム、リゾチームを含む；

４）アニオン性界面活性剤：脂肪酸のカルボン酸エステル（とりわけ、オレイン酸ナトリウム、パルミチン酸ナトリウム、ステアリン酸ナトリウム、ミリスチン酸ナトリウム）、アルキル界面活性剤（ドデシル硫酸ナトリウム（ＳＤＳ）等）；及び、

５）カチオン性界面活性剤：アルキルアンモニウム塩（ドデシルトリメチルアンモニウム臭化物（ＤＴＡＢ）、セチルトリメチルアンモニウム臭化物（ＣＴＡＢ）、及び、オレイルアンモニウム塩化物を含む）。